

# 関東での導入第1号

## エフ・ケイメカニックス LPGハイフューエル シエンタHBを採用

日の丸交通

タクシー会社の日の丸交通（東京・文京区、富）も、適切な管理体制をわかりやすくアピールすることで、社会の信頼を獲得できること。内部的には、個人情報管理体制の強化、社員の意識向上、漏洩事故の予防、発生時のリスク低減が可能となり、個人情報保護の社内体制を構築し強化することができていることが挙げられる。

現在、J-PDDECの指定のもと、専門分野を担当する審査機関が12機関、地域を担当する機関が6機関指定されているが、LPGガス関連分野の専門機関は指定されていなかった。LIA-AACは、初めての、LPGガス関連分野を専門に担当する審査機関としての役割を担うことになり、LPGガス事業、業務を熟知したLIA-AACが対応するメリットは大きい。

審査サービスの実施対象としては、全国LPGガス協会、日本コミュニティガス協会、日本ガス石油機器工業会、日本エルピーガス供給機器工業会の4団体の会員などを対象に、審査サービスを開始する予定。

今後、指定期間としての業務開始に向け、準備を行うとともに、個人情報保護の対応への必要性の周知や関係機関への働きかけ、説明会などの開催も検討していく考えだ。



納車に立ち会った関係者たちも記念撮影

田和孝代表取締役）は、7月26日、日の丸交通足立（東京・足立区、横山真人所長）において、小型タクシー向け車両としてエフ・ケイメカニックス（大分市、古川克己代表取締役）の開発したLPGAハイフューエル車・トヨタ新型シエンタハイブリッド（5人乗り）1台を納車した。関東での導入は記念すべき第1号となった。



エフ・ケイメカニックスのLPGAハイフューエル車は、ガソリン車よりもLPGシステム搭載分、車両価格は上昇する一方、そのコスト差はランニングコストで回収可能。走行燃費はほぼガソリン車と同じで、燃料単価は常にガソリンよりLPGのほうが安いため数万キロ走行で回収が可能。その後のランニングコストは大幅に低減し、走れば走るほどお得になる。

同社が採用するLPGAシステムはヨーロッパ・ポーランドのもので、LPGA充填口は、ガソリン給油リッド内に併設して設置。スマートな外觀と、充填口の耐久性にも配慮した。

日の丸交通は、今後同車を実際に乗車・走行していくなかで運転者の使い勝手の良さや効率性、快適性などお客さまの反応を確認したうえで、LPGAバ



LPGA充填口はガソリン給油リッド内に併設



イフューエル車のさらなる導入を促進するかどうか等検討していく。

なお、今回納車したLPGAハイフューエル車・新型シエンタハイブリッド（1500cc、5人乗り仕様）のベース車両の本体価格は218万7000円（消費税込み）だが、「別途LPGAハイフューエル架装（改造）費用がかかる」（エフ・ケイメカニックス末宗睦郎取締役専務）という。

当日は、日の丸交通足立の横山所長、日の丸交通経理部車両管理課の菅間智課長、エフ・ケイメカニックスの末宗取締役専務、米自動車の中村正人整備部長、サカエオートコムスの塚田正人常務取締役などが納車に立ち会った。

7月28日午前3時31分頃、三重県南東沖を震源とする地震が起き、関東から東北にかけて震度2から4のやや強い揺れがあった▼この地震は、震源地に近い東海では揺れが震度1程度で、東北や関東でやや強い揺れとなった。TVの速報も第1報は千葉県沖が震源と流れた。直ぐに三重県沖と修正されたが、宮城県丸森町では震度4が記録されている。もしこれが懸念される東南海地震だったらと思うとぞっとする▼来年は待ち望む東京オリンピック、パブリック開催年。今度さえ来日外国人の増加が実感されているが、来年の梅雨時前後になると、世界中から大勢の人々が来るはず。こんな時に大きな地震や豪雨あるいは台風が重なるると祭典どころでなくなる。こうした季節の特性を胸に刻み、災害等の非常時に「おもてなし」の気配りを心掛けたいものだ▼面白い話としては聖火台のエネルギーに「水素」の利用が決まった。聖火ランナーのトーチは今まで通リLPGガスが利用されるが、聖火台に水素が使われるのは初めて。ガス業界としては素直に喜ぶたい。環境対策を象徴する炎だ。

**ガスのある暮らしに安心 警報器**

ガス/CO警報器をおすすめしましょう!

ガス警報器には交換期限(5年)があります。

ガス警報器工業会 <http://www.gkk.gr.jp>

35年の実績を誇る信頼のブランド コンパックGでさらなる発展と調和を!

LPGガス業務管理システム

**COM-PACK G + タブレット アプリケーション**

2019年8月 プロパン産業新聞